

市では、市内の学校に通う児童・生徒に小諸のことをより知ってもらうため、副読本として「こもろヒストリー」を作製しました。
ここでは、その一部を連載してお伝えしていきます。



【釈尊寺観音堂】

▲市内にたくさんある寺の中で、一番古いといわれている「釈尊寺」。奈良時代に創建と伝えられています。観音堂の内部の宮殿は、国の重要文化財に指定されています。

▶市内にあるお地蔵様の中には、赤い布が付けられているものがあり、現在も大事にされています。



HISTORY No.2

——— 仏教が広まった ———

▶「牛にひかれて善光寺参り」の由来

信仰心のないおばあさんが、近くの千曲川で布をさらしていると、牛がやってきてその布を角にかけて走り去ってしまいました。さあ大変！おばあさんは、必死で牛を追いかけて、とうとう長野の善光寺までたどり着いてしまいました。

善光寺でお参りをしてからおばあさんは、仏教をあつく信仰するようになって、家族12人がみな善男善女になったということです。

このことから、「布引」の地名が残って、思ってもいなかったことや他人のさそいによって、よい方に導かれることのたとえを「牛にひかれて善光寺参り」と言うようになったとのことです。

▶「^{にじゅうご ぼさつらいごうえ}二十五菩薩来迎会」

平原には、「二十五菩薩来迎会」という宗教行事が伝えられています。阿弥陀如来に率いられた25の菩薩様が亡くなった人を極楽に導いていく様子を地域の人々が演じています。鎌倉時代に「時宗」という仏教を始めた一遍上人が伝えたとされています。

市の無形民俗文化財になっています。



超大作

全12回

私が住むまち

小諸の歴史

K O M O R O
H I S T O R Y
歴史の なかに、 未来の ひみつが 横た わっている

こもろ未来プロジェクトシリーズ